

CO2貯留適地の調査事業

令和3年度予算額 **5.5億円 (5.5億円)**

事業の内容

事業目的・概要

- 二酸化炭素回収・貯留(CCS: Carbon dioxide Capture and Storage)技術は、CO2を大量回収・貯留する抜本的な方策として、IEA報告書（2017年）において、2050年までに世界の累積CO2削減量の14%を担うことが期待されている。
- 「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（令和元年6月閣議決定）」で定める2050年までに80%の温室効果ガス削減を実現するため、CCUSの早期の社会への普及による貢献を目指します。
- 国内には約2,400億トンのCO2貯留ポテンシャルがあると推定されていますが、あくまでも基礎データに基づく推定であり、個々の候補地点の貯留ポテンシャルを特定するには不十分で、引き続き大きな不確実性が残ります。このため、大きな貯留ポテンシャルを有すると期待される貯留地点において、海底下地質の詳細調査を実施し、貯留性能、遮蔽性能、地質構造の安定性、海洋環境保全の観点から、貯留層のポテンシャル評価を実施します。
- 本事業は、経済産業省と環境省の連携事業であり、両省共同で事業を実施します。

成果目標

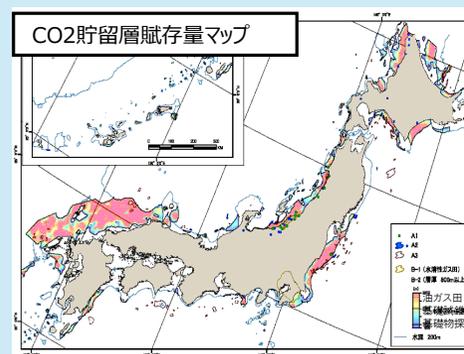
- 本事業は平成26年度から開始しており、事業終了後に調査井掘削、地元調整、CO2排出源からの輸送方法の確立等を通じて、貯留適地候補を3地点程度選定することを目指す。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

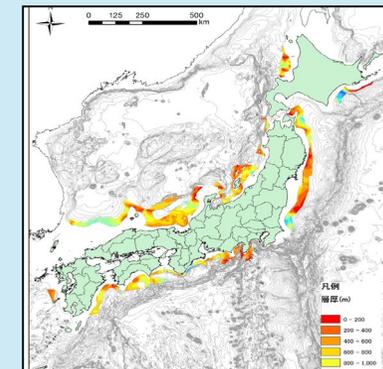


事業イメージ

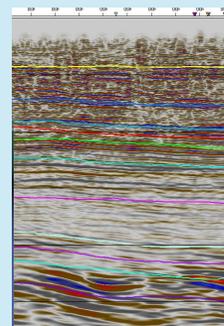
海底下地質の詳細調査



全国貯留層賦存量調査（2005, RITE）



NEDO/AIST（2012）「発電からCO2貯留に至るトータルシステムの評価報告書」



弾性波探査による層断面図



エアガン発振で生じた水泡

海底下地層の弾性波探査

主な調査実施スケジュール

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
弾性波探査	←							→
探査データ解析		←						→
挙動予測シミュレーション					←			→